繪本太閤記 七編 十二

へ伊13
1883
84

特へ13
1833
巻 84上

古圃記七篇巻之十二

目録

若紫狀話
石田三成命を無辜に殺す圖
渡若猿面を射し姿色乃憔悴を驚く圖
曾日睡仝龍の法を能とる圖
渡若蛇形をかくす圖
北政所紀狀話
古圃市夫婦御幸言猿樂を見る圖
能圖欲奉教乃圖

地藏之像
風吹柳の圖
高臺寺の圖
傘の亭の圖
高臺寺什物政所御道具の圖
法東耳塚の由來
月圖

浅草文庫

續東照記十篇卷之十二

淺井物語

今年慶長三年の夏の頃より右府再び肥前の名護屋へ御出陣みべきとての御ものがたりしが何とぞ小舟月の始めつかた去りし頃なりしが其のたびの右府何とぞ御心爽やかなれば引籠りて御座なるかの政所淀君とかたらせ給へ御側近く仕る近臣侍嬪等驚きさらに亡い吳例御ものがたりしまゐらせ曲藥改めし出され御あるさまと覺ひなアはうとの御いさかりとくも御菓子など調へ給ひ人々色よく皆心ゆりて愛顧なるうきれば或いまめやかに立出給ひ岩の國達よりしのけじめるく朝鮮の軍の日本のこの事ども

石田三成と紫りて名護屋へ下向之図

ゆせ給ひ例の狂ひ出給ひてこれらうの御みさまよう見たる人く
勢び給ふ事ぐふ又の日い対久人く御心をく月人させ給ひ歎くく
籠り居給ふよこいいふやと勢きまぐよかくて五月も九六月
ゆりねと思ふ者の御乳をたいるるせ給ひぐけぐつい信御ゐ
減ぐさせ給ふ主伏月の大小名面ゑ遠へ天下の名ゑき医師と
悪くや重し諸社諸山よ命く御祈祷る方ゑく幼いせ給へ
さしたる御弱ゆ月人させ給ひぐ又御労乃募ゑ月人ぐ一向
御心乱ゑ籠らせ給ひ寄ゑ月人ぐ国くみ諸侯ゑい
浮雲ゑ祭ぐぐく安き心いゑ月人ゑ国ゑ日石田治部ゑ
薄とめ給ひ月人ゑ心祈朦朧としてゆ
給ひ月人ゑ肥前の名護屋ゑ下向秀吉代ゑ朝鮮の
軍令もうさぐり戦病の癒る乃向大ふ
うの出ぐ豊ふ三歳大きふ勢ゑ殺さ所を探くゆ月人御護取
てはゆ月人ゑ小呂いでゑ偽ゑ大ゑの御役ゑ出ゑぐきや統中諸大名
と指揮ゑ月人ぐ呂ゑ戦ゑ出ゑぐ恐ゑ月人ぐ他人み
俗ゑ月人ゑ出ゑし其ゑ御側ゑ離ゑ他国へ発きいゑんも何ゑう
心ぐゑ月人ぐ恐ゑ人く言ゑ月人ゑ国御祈ゑ月人ゑ出ゑ給ひ海ゑ
呂むゑ月人く遠ゑ薬ゑ月人ゑ戦病ゑ癒ゑ月人ゑ助ゑ月人ゑ海
ゑ月人て九州ゑ探頼ゑ月人ゑ月人ゑ月人

源若殿面
対して
次安きの
懼悴と
なるく
図づ

[illegible]せらるゝ三位殿御代富[illegible]して藥師寺に強き二のすきのゝ人々
[illegible]たるものどもゝ[illegible]れば京住乃ち大坂の間を押ひてさまゝくの濫妨を
[illegible]何ゝ[illegible]く物騒しく大名諸侯彼方人ゝ[illegible]に集り[illegible]
[illegible]の[illegible]く騒動せるゝ大方ゝ[illegible]祈を委くゝ[illegible]
宮中の女房軍[illegible]。浪若両方と互南してもを商謙[illegible]
[illegible]して南してゝ[illegible]心の丑と刺殺へ諸国の大名小名武[illegible]
[illegible]荷擔し浪若の味方[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
強き罵[illegible]ゝ[illegible]て浪若い[illegible]
後藤朝臣[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
言大和中納言及び本下若[illegible]
[illegible]本下左京亮日内記[illegible]

[illegible]く動び其[illegible]ひの及び[illegible]
[illegible]へ若若の御[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]名小名信[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ

僧日瞬金龍の法を圖

肉落てをまをくも肌は皺とはひうを忽ち大きふ落たたまひ
これは悟きのそみうるはしやを罔はおくを第一せくもおのれ天下の
諸侯と味方より引入吉威接をして他の人は張りはじとうふい只我吾
をのうるはしきをんて人と弱の外に出ぶ他ろふをくを義へ公給腰峰と
らんとふくらんが親まもんや僕命は限りみとも仏のうちで接る
年をうが物をくるのかはじかーと引うづひく邪給ひしが宴は大明国書
素駒せ偏は日蓮とうつ者原ふ雛組人なるが大明は入く紛法と
猿と日本は涙つく甲州の鼻延山は日蓮と人の遺法ををうひ等
金陵紛をうく頗る法力ありて人の病若雑病を祈禱せ小忽ち
直給みく平癒せざるりの一人は白浪君は信長公の御姪女うー
元来は蓮宗と云敬ましませば日蓮が実弟みるのとなりしめて

ふ徳見の星見登〜摺龍院とうろ一寺と場ひ出た帳内は
入く御殿を源うしは俄は日蓮と拓き寄は伝みるいは日素
人の難病と祈平苦しとと祈はるは甚きく一人も其験のみうる者は
祈る密世の廣徳我源く先とををふ吟我身は一つの大祈は祈りて
給みくがいうるは荒紛吾とうふふも我自ら先と僕せん日
蓮僅で祈り人は一万物の霊ふ〜心を凝し妄事の境は之を祈い
何はの祈ひうりと成就せばらるは白はいは拙僧は日ごろ
僧紛せし法力を以く御祈を濁しまうん浪君は大は勢ひ給ひ
抑我祈とは何は素世成佛の事たはうば現世は後と祈ろ小乗は
只我身の次安を裏へば婆婆して我身をも修へば我事既は是う
日蓮為人くは御祈成就せしをんは雑きはうば我紛は気時の法

真題記七篇卷壹

[illegible]にあり是い寄人を立て寄の寄邪神力邪を唱へ数種の秘法を為
[illegible]祈り人へうつるはじめ[illegible]滝祝を告げさむ〳〵べし是よ
[illegible]祝の対法は[illegible]祝を祝の変[illegible]も間あり実は金龍の法と
[illegible]滝祝せばこれ[illegible]滝祝せばこれ
[illegible]法を行ふ時は[illegible]
[illegible]是と偽る不富士山に登り山に龍に乗を相唱へて偽秘
[illegible]て金園の源きよ[illegible]
[illegible]の山谷に理秘[illegible]
[illegible]の肉一すを切て拙僧小編つがを肉身に絶えと讀と入を
[illegible]法を表て御部を[illegible]
[illegible]しば涙若大きに歌び[illegible]
[illegible]を接て内腸の肉一すを切て[illegible]
[illegible]道より[illegible]
[illegible]岸を[illegible]
[illegible]の山谷に踏迫して絶に三ツ股川の河岸に[illegible]
[illegible]日忽ち山上に昇して逆頂
[illegible]と塞で日の光を蔽ひ数十丈の大蛇孔に生
[illegible]と唱へ[illegible]翻ぜり日曜いよ〳〵丹滝をこらし
[illegible]大蛇を近く招き[illegible]の生肉を与へて色を喰しめ[illegible]
の肉一すを切て[illegible]の中に抛こむ[illegible]
[illegible]の法を行て大蛇とはし
[illegible]に謁〳〵蛇肉を[illegible]内腸の
[illegible]納め今[illegible]退き[illegible]腸の間に肉食[illegible]
[illegible]の雷[illegible]の涙[illegible]の御容日毎に[illegible]
[illegible]やうの[illegible]の雷を合ろ[illegible]

南方支那
猿楽の図

[illegible]

[illegible]

[illegible]

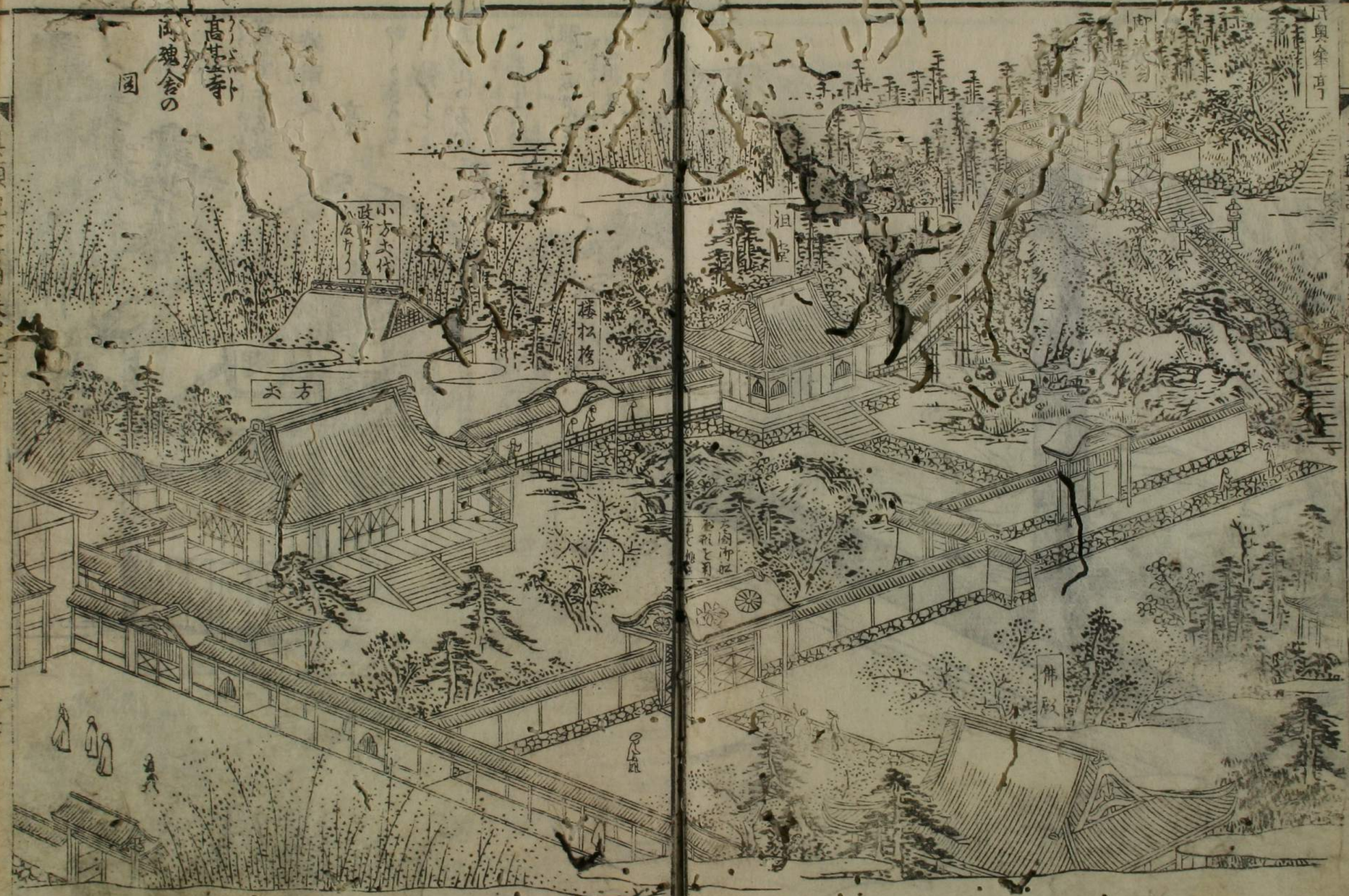
古風奇妙
於國阿波踊り
妓
妓
十二

女まいさうひたいさのぢちのたうまし〳〵よ
策源の後者とう〻人び脇つけうう　罵詈
とらがゆ〻ヒウヤラ
ゆ〻ゆ〻ゆ〻

の母なる人は佛せつ法より[illegible]より[illegible]より[illegible]

風吹柳
乃図
真題記七篇巻之八
十五

高野山寺
院魂舎の
図



高臺寺名物
時雨の亭
勢ひて
高上の名所
眼下に見る
其風色
傘の亭
天井の梁
用きるが
故に名
付せり
二亭ともに利休が好みる処なりと
云伝へり按ずるに利休は天正十九年
物故せり高臺寺乃建立は
慶長十二年なれば利休没して
既に久しく後者の誤り
不考

政所殿御寄附高臺寺付属門主道具之畧写

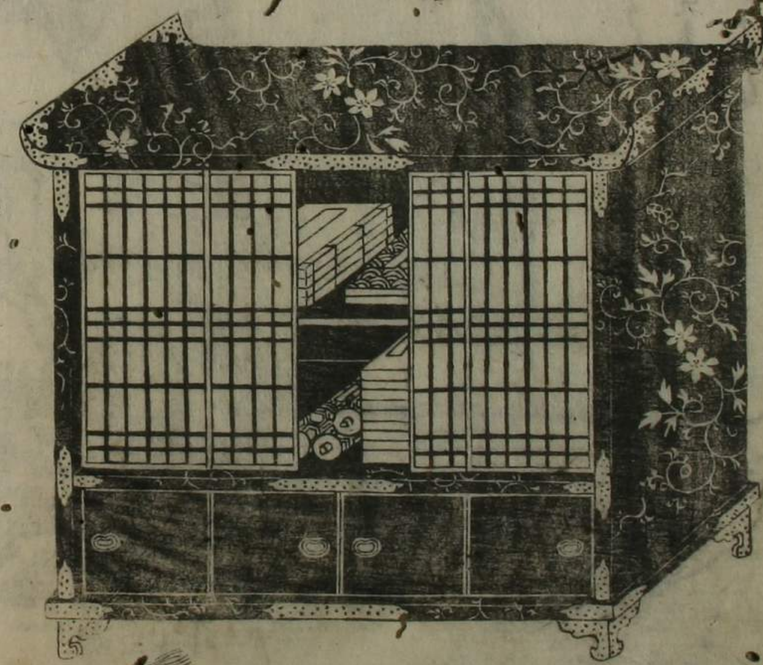
御書棚 横四尺 竪三尺五寸

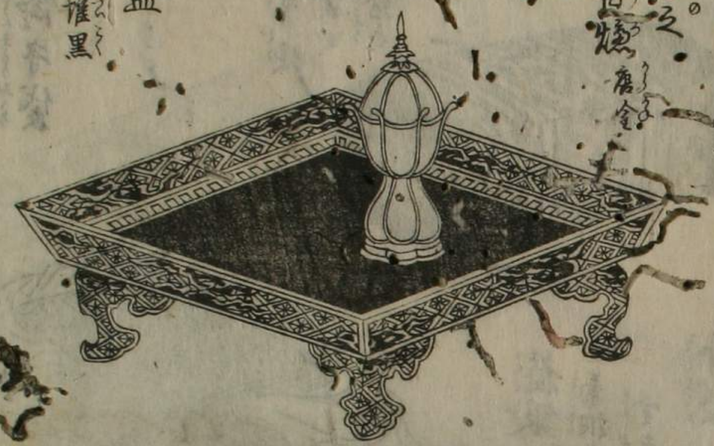
無地雲形縁

唐草彫

障子四枚宜

生絹張





香盞 唯黒

御書之 香爐 唐金

御机 面無 鼈甲張

横柳之 御團扇

柄 一角

蜀江錦
御守袋
櫛
鬢
櫛
櫛之
御
箱銀
菊桐御紋
金赤羽
外袋
天鵞絨
外箱
黒塗
御紋金
御提重
黒塗高
春蒔
徳利
コモカ
金物
銀
御菓子重
黒塗十二重
流金敗

御膳具一式
蒔金蒔絵
海松貝
高蒔絵

二三之御膳
御茶碗
御茶碗之
留摘之

御茶碗
足付高蒔絵

御手拭掛
合地金御紋金上金物金銀

御角盥

○七宝之鉢
○御手箱
○御庫鞘挑灯
○長柄杓
○御羽箒
○御膳

蒔絵
金
蒔絵の
御膳之類

蒔絵高蒔絵
又朱塗洗金脇
名金物金銀
高蒔絵金銀の金物

○御茶壺
○留摘之鉢
○双六盤
○杉紙箱
○唐木御机

蒔絵の
貝地古金塗

絵刀木
蒔絵

右の外古の御文通具を保し政不殿より嵩寺へ寄附し給
其品々数しきが成る実に器に就中牧溪が三幅対い世に名高き
所堂寺されて表装をうん其外古画故筆掛物屏風襖附換等
牧谿とろふ、とまあ、たの[illegible]
一 [illegible]

朝鮮人
耳塚
築る
図
正

よ遠り名を小殺しきこゆ何さま此耳鼻の蒙すと流り
うばつてし卿こうるの者を所ゆるいしる幼を図乃六
卿ひとして洛東大佛殿の柱に大仏を完と掘せ耳鼻とそ
埋こ後世に残して其勇名秋天邦まで輝しかつ人を号けて
像とらん氏後朝鮮人来朝の時ひの耳塚を見く涙と流し此塚
鼻と葬り建し者いこ我国の忠臣乱ちんて国恩と報ぜし人ちり
いけく塚の下こて者を嬉きさ名文と懐ふ吊ひいること
乃ん出考とる者ち

繪本太閤記拾遺

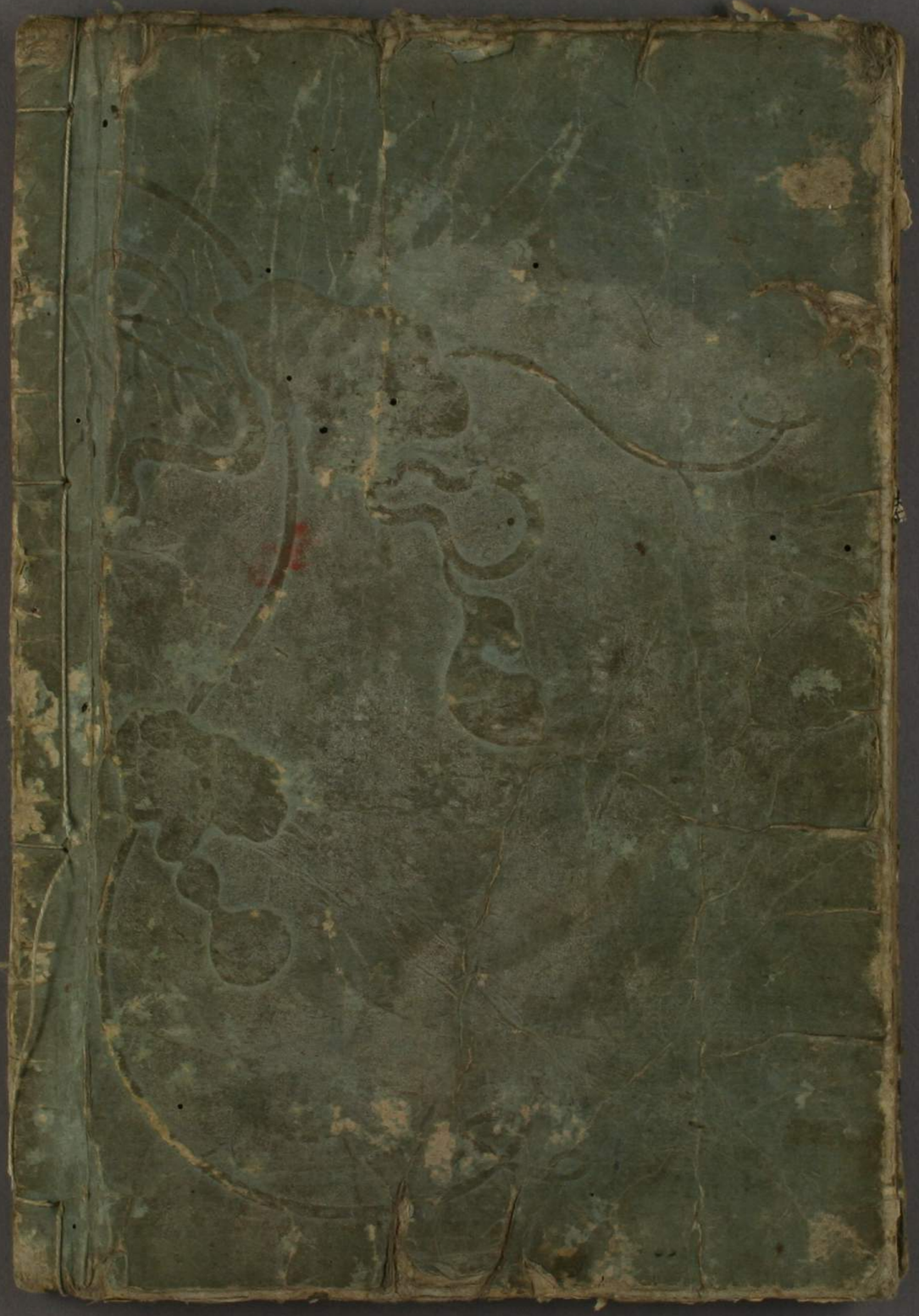
畫圖

浪華　法橋玉山

書者玉山御誕生より沛一代の事跡ハ去国記初より七編まてのるに載るとのこゝも甚かれる美名とまから後悲くくられをひろひ挙て拾遺一編とあるを刻かると後見の人

雕刀氏姓名											
一之巻	京	井上治兵衛	七之巻	京	樋口源兵衛	二之巻	大坂	池田長右衛門	八之巻	〃	井上治兵衛
三之巻	〃	市田治郎兵衛	九之巻	〃	樋口源兵衛	四之巻	〃	市田治郎兵衛 越口源兵衛	十之巻	大坂	池田長右衛門
五之巻	〃	樋口源兵衛	十一之巻	〃	市田治郎兵衛	六之巻	〃	井上治兵衛	十二之巻	〃 京	池田長右衛門 井上治兵衛

享和二年壬戌夏六月

東都書林　西村宗七

浪華書林　多田勘兵衛
鹿島忠兵衛
小川新兵衛
中川五兵衛
森本太助
小林六兵衛